

(株)オリエンタルコンサルタンツ 社会環境事業部
国際活動委員会 ASPAC 分科会 渡津 永子

1. 会議概要

(1) 開催日：2009年3月10日～3月13日

(2) 会場：Hotel Yak & Yeti カトマンズ、ネパール

(3) テーマ：Making Globalization Work: Role of Consultants

開催主体：FIDIC/ASPAC (メインホストは SCAEF ネパール協会)

(4) 参加国：アジア・オセアニア地域 16 カ国 (内ネパール約 230 人、海外より約 80 人)

2. 講演概要

大会の構成は、「アジア各国の状況報告」、「ネパールにおけるビジネスチャンス」、「その他技術セッション」の3項目7セッションで構成されており、32本のレポート・論文が発表された。

「アジア各国の状況報告」については、バングラディッシュ、中国、インド、マレーシア、ネパール、パキスタン、スリランカ、タイ、ベトナムの9カ国から、各国の経済状況とコンサルタント業界の動向、力をいれている取組等について報告があった。各国に共通する視点として、インフラ整備など国の発展にはコンサルタントの貢献が重要、グローバル化の進行に伴う国際競争が激化していることを受け、自国のコンサル産業の振興のためには人材育成が不可欠であるとの認識が示された。

「ネパールにおけるビジネスチャンス」についてはネパールから7名が講演を行った。ネパールでは、道路、上下水道、住宅整備などインフラ整備がまだまだ発展途上にあり、JICAをはじめとする国際機関等の支援を受けて整備を進めている状況である。講演の中では、豊富な水資源を利用した水力発電開発に関する発表が注目を集めていた。ネパールは慢性的な電力不足状態であり、首都カトマンズ市内においても一日4回計画停電が実施されている。産業の発展や市民生活の向上のためには、電気供給は非常に重要な要素であるが、開発費用や環境影響への懸念から事業が思うように進んでいない状況も伺えた。



開会式での記念撮影



ASPAC 議長として挨拶される廣谷会長



「その他技術セッション」については、日本からの3名を含む16名が発表を行った。テーマはアジア地域における経済発展とコンサルタント産業の関わり、人材育成、環境との共生、施設防災など多岐に渡っていた。

「人材育成」については、アジア開発銀行におけるコンサルタント人材育成プログラム紹介（アジア開発銀行）日本における技術者育成の取組紹介（廣谷会長講演）、FIDIC や京都大学、JBIC（現 JICA）によるアジア地域におけるアジュディケーター育成に関する講演（山下 AJCE 事務局長講演）などがあり、活発な質疑応答が展開された。

「環境との共生」については、スリランカにおける地域整備事例（日本工営 Cooray 氏講演）や、日本における日本橋再生事業（建設技研 伊藤氏講演）、ネパールの山間地の道路緑化の取組などが紹介された。スリランカの事例は、低所得地域におけるコミュニティと連携した地区整備の事例であり、発展途上国における好事例として会場の関心を集めていた。また日本橋再生事業についても、水質改善や地域に根ざした景観づくりの好例として、驚きとともに迎えられていた。

3. ASPAC 会議

廣谷会長が議長を務める、ASPAC（FIDIC Member Associations in the Asia-Pacific Region）は、本大会中に臨時会議をもった。FIDIC 会長、次期会長も参加し、活発な議論が展開された。（参加者は議事録のとおり）

主な議題は、先のケベック会議において協議した「ASPAC 地域における人材育成プログラム」や、「ASPAC 若手技術者フォーラムの設置」であった。のコンサルタントの育成のための人材育成プログラムについては、各国で既に FIDIC と連携



ASPAC 会議後の記念撮影

したプログラムが実行されつつあり、ASPAC として新たな枠組みを構築するよりも、情報交換を活発化し、それぞれの地域にあったプログラムや講師派遣に活用しあうことなどを提案・協議した。

については、FIDIC の若手グループの協力のもと、設立に向けた準備を進めており、その進捗状況を報告した。

その他、理事選の告示等に絡んで、メンバーから出た主な意見は以下のとおりである。

ASPAC 地域における人材育成プログラムについて

- 教育プログラムについてはメンバー国が参加しやすい方法を検討すべき。インドはその意味で、セミナーそのものや手続き等についてモデルとなり得るため、対象国の支援が可能である。
- FIDIC はセミナーを MA と共に開催するとともに、参加国から意見を聞き、プログラムを改善する仕組みを設けている。ロンドンで行われる定期会議だけでなく、今年は香港でも行うため、こうした機会に各国の意見を吸い上げたい。（FIDIC 会長）
- 対象国を選ぶ基準のひとつとして、隣国からの参加しやすさも挙げられる。

ASPAC YPF について

- 若手の参加は、FIDIC やこの産業に新しいアイデアを吹き込む意味でも重要である。ASPAC 地域における活動の拡大に期待する。(FIDIC 会長)

ASPAC Action Plan 及び Open Discussion について

- 活動の活発化する上で、メンバーが FIDIC の活動に参加しやすい方法を検討すべき。例えばセミナーについてもそれぞれの協会で自立することが重要であるが、FIDIC のドキュメントの値引き交渉や、講師料の支援、またはローカル出身の講師の派遣など、セミナー受講料を低価格にし、参加しやすいよう工夫が必要。
- これまでの活動の継続性を考えると、固定の事務局の検討時期に来ている。
- 上記に加え GAMA (アフリカ地域組織) のように、ASPAC としての国際会議も開催したい。

ASPAC 理事改選について

- 次回の総会で、会長も含め 5 人が改選される状況を受けて、一度にメンバーが総入れ替えとならないよう任期を検討すべきである。またぜひ若手を理事会に入れてはどうか。(FIDIC 会長)

3 . ウズベキスタンとの覚書調停

本大会中に、AJCE とウズベキスタン協会とが覚書 (MOU) を交わした。

今後は、情報交換、技術協力等を通じて、両国のコンサルティングエンジニア産業の発展に、協力しあう旨が約束された。

4 . ASPAC-Young Professional Forum 設立に向けた若手技術者との意見交換

上述のとおり、ASPAC では、若手技術者の交流の場である ASPAC YPF の設立を進めている。

今回は、イランと中国、日本からは私が参加し、ASPAC 臨時会議の場で、それぞれの国の若手技術者向けの活動状況を報告した。また会議の合間に、FIDIC ロンドン大会 (2009 年秋) やデリ大会 (2010 年秋) に向けてどんな活動をしていくか話しあった。

FIDIC 関連の国際会議に参加して感じるのは、若手技術者や女性技術者の出席が非常に少ないことである。ここ数年こうした状況を変えていこうと、FIDIC は若手技術者向けの活動を活発化している。今回、我々のような若手技術者の参加や発言は、シニア層中心の会議の場で非常に温かく迎えられた。ねらいとしていた若手の存在感を示すことができ、ひとつの目的を達することができたように思う。



ウズベキスタンとの覚書締結



若手技術者と意見交換中

5．終わりに

今大会は、アジア地域の発展途上国が中心であり、各国の経済発展におけるコンサルタントの役割や人材育成の重要性がポイントとなっていたように感じた。

また ASPAC 会議については、この3年間ある程度まとまって議論してきた流れを継続したいというメンバーからの雰囲気を感じた。



市内の様子（カトマンズは常に埃っぽい）



帰りの飛行機の中から見たエベレスト